

⑨日本国特許庁(JP)
⑩公開特許公報(A)

⑪特許出願公開
昭54-46662

⑤Int. Cl.²
F 24 C 1/04
A 47 J 27/04
A 47 J 27/66
A 47 J 37/00
A 47 J 39/00

識別記号 ⑥日本分類
127 E 3
67 J 0

⑦内整理番号 ⑧公開 昭和54年(1979)4月12日
7116-3L
6566-4B 発明の数 1
6566-4B 審査請求 未請求
6572-4B
6572-4B

(全3頁)

⑨食品を煮沸又は加熱する装置

⑩特 願 昭53-103367

⑪出 願 昭53(1978)8月24日

優先権主張 ⑫1977年8月31日 ⑬西ドイツ
(DE) ⑭P 2739198.6

⑮発明者 アルフレート・レール
ドイツ連邦共和国ボツフム・ク
ネツペルシュトラーセ14
同 ギュンテンル・ヴァインテルホフ
ドイツ連邦共和国ドルトムント

・ミランヴェーク16

⑯発明者 ヴォルフガング・チエツク
ドイツ連邦共和国ザイヴェラー
ト3

⑰出願人 キュツペルスブツシュ・アクチ
エンゲゼルシャフト
ドイツ連邦共和国ゲルゼンキル
ヒエン・キュツペルスブツシュ
トラーセ16

⑱代理人 弁護士 ローランド・ゾンデル
ホフ 外1名

明細書

1. 発明の名称

食品を煮沸又は加熱する装置

2. 特許請求の範囲

1. 煮沸品を納める階段数個を有し、通風機数個及びこれに付属した電熱素子を備えている煮沸室で食品を煮沸又は加熱する装置において、熱通風機4は煮沸室1の共通側に間隔を置いて上下に配置されており、各々の熱通風機4の前には中央吸込孔13並びに側面出口孔14を有する取除くことのできる蓋12が配設されており、通風機によって生じた熱空気気流は、煮沸室の相対する側の方向に向いた空気気流が形成するよう導かれ、煮沸室1は底部領域に蒸気発生器として水浴7を有し、これにヒータ8が付属していることによる装置
2. 热通風機4は独立して相互に異なる回転数で作動し得る特許請求の範囲第1項記載の装置

3. 煮沸室1は天井側に調節し得る孔9を有する特許請求の範囲第1項記載の装置

4. 孔9は調節し得る蒸気引窓9'を備えている特許請求の範囲第3項記載の装置

5. 水浴7に、調節し得る水導管10及び排水コック11が付属している特許請求の範囲第1項記載の装置

6. 上下に存在する個々の蓋12はウエブ15によつて分けられている特許請求の範囲第1項記載の装置

3. 発明の詳細な説明

本発明は、煮沸品を納める階段数個を有し、通風機数個及びこれに付属した電熱素子を備えている煮沸室で食品を煮沸又は加熱する装置に関する。

ドイツ特許公報第1009465号からこの種の装置は公知である。この装置では2個の熱空気回転器を有し、これは各々煮沸室の相対する側壁に設けられている。しかしながらこの装置を用いると、食品の経済的煮沸又は調理は、

促進され、階段中の各々の煮沸品に対して適当に調節することができる。

本発明のもう1つの構成では、個々の熱通風機を独立して相互に異なる回転数で作業させるのが好ましい。これによつて各々の階段に別種の煮沸品を装入することができ、それと共にその種類が異なる多くの処理すべき煮沸品を同時に煮沸又は調理し得る利点が得られる。

更に本発明による特に好ましい構成は、煮沸室に底部領域に蒸気発生器としての水浴を備えることである。これによつて、個々の熱通風機によつて生じた熱空気気流を通つて水蒸気が同拌し、煮沸品に送られる。この方法で煮沸工程における一定の供給の過度の乾燥が避けられ、このために煮沸すべき物品の特に穏和な調理が得られる。特に好ましい方法で装置はしめ出された煮沸室の加熱であるが、挿入された水浴の加熱で作業することもできる。

次に添付図面につき本発明を説明する。

食品を煮沸又は加熱する装置は加熱室1を有

煮沸室の全階段に煮沸品を備えている場合に可能であるのに過ぎない。それというのも煮沸室中で相対して存在し加熱素子を有する両熱空気回転機のために、熱空気は常に全煮沸室に運ばれるか又は旋回するからである。更に熱空気での全階段の均一な負荷を保証するためには、両熱空気回転機を常に同じ回転数で作業させなければならない。

本発明の目的は、一面では作業法を増大させ、他面では食品又は煮沸品の経済的並びに穏和な調理が得られる前種の装置を得ることである。

この目的は、本発明によれば通風機は処理室の共通側に間隔をおいて上下に配置されており、熱通風機によつて生じた熱空気気流は、煮沸室の相対する側の方向に向いた空気気流が形成するように導かれることによつて解決される。

この方法によつて好ましく各々の煮沸品一階段に、所要する熱通風機で直接に熱空気を供給することが達成され、これによつて煮沸工程が

し、その前方の装入側は戸2によつて常用の填隙装置3の中間接続下に密閉することができる。煮沸室1は数個の階段を備えていてよいので、階段I, II, III, IV中に上下に煮沸品を装入することができる。煮沸室1の背面には、各々のモータ5によつて作業し得る数個の通風機4が放射状ベンチレータの形式で設けられており、これは好ましくは最大400mmの間隔で上下に配置されている。この方法で、熱通風機を作業させる際戸2の方に向いた数本の空気気流が形成する。個々の通風機4の周りに同心状に常用のシャケット管加熱素子6が通じている。煮沸室1の底部領域には水浴7が設けられており、これはその下方に配置されたヒータ8によつて加熱することができ、更に煮沸室1の蒸気発生器として役立つ。更に浴は煮出し汁（脂肪、又は肉及び野菜の汁）を受け集めかづ保存するのに役立つ。これによつて焼けだ煮出し汁によるめんどうな処理が避けられる。天井側には処理室1に調節し得る孔9が設けられており、

これにより煮沸室1からの熱空気及び水蒸気の導出を蒸気引窓9'を介して調節することができる。水浴7には、必要により弁によつて遮断することができる水導管10によつて水を供給することができる。水浴7をからにするためには、底部側に排水コック11が設けられている。

同心状に回転せる加熱素子6を有する熱通風機4の各々の前には取除くことのできる蓋12が配置されており、これは中央に吸収孔13並びに側面の出口孔14を有し、これによつて熱空気は側面のシャフト14'に入る。

その数個の蓋12は、熱通風機4の放射送風機羽根4'はウエーブ15によつて相互に分けられているように構成されている。これによつて、熱通風機4を備えた煮沸室の個々の煮沸品一階段I～IV中への熱空気の均一な回転が得られる。

煮沸室1並びに水浴7の加熱、蒸気引窓9'、水浴7の水導管10及び排水コック11及び個々の熱通風機4の回転数の相互の調節は、適當

に配置された煮沸室1中のその都度の煮沸品の計画処理量によつて自動的に調節することができる。

提案された装置はすべての公知煮沸法、例えば乾燥、加熱、再生、熱保持、焼き上げ、あぶり、グリル、解凍、トースト、煮沸、蒸し煮、シチュー、とろ火で煮る、煮つめ、ゆでる、予煮沸、煮上げその他に最適である。それというのも該装置は、乾燥熱空気並びに蒸気／空気混合物又は水蒸気だけで操作することができるからである。

4 図面の簡単な説明

オーバル2图
圖面は本発明による装置の縦断面図である。

1…加熱室、2…戸、3…換氣装置、4…通風扇、4…放射送風機羽根、5…モータ、6…加熱素子、7…水浴、8…ヒーター、9…孔、9'…蒸気引窓、10…水導管、11…排水コック、12…蓋、13…吸収孔、14…出口孔、14'…シャフト、15…ウエブ

代理人弁護士 ローランド・ゾンデルホフ(ほか1名)

Fig.2

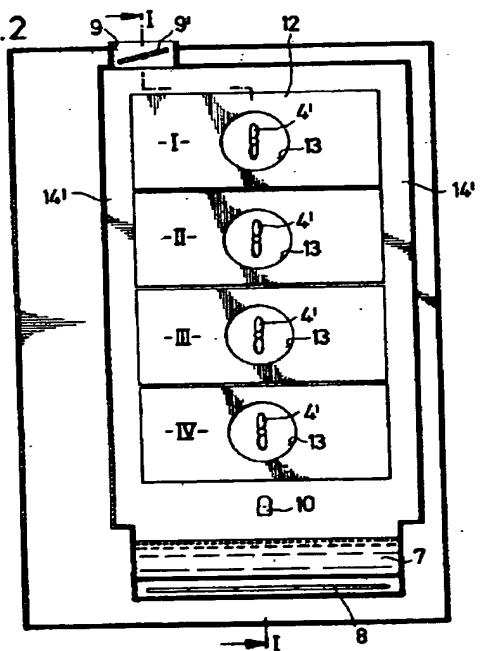


Fig.1

